

## 高齢者の運動抑制-反応タイプと音刺激の影響-

### Motor Inhibition in Elderly: Impacts of Response Type and Auditory Stimulus

土田宣明 (立命館大学文学部 教授)

吉田甫 (立命館大学文学部 教授)

大川一郎 (筑波大学大学院人間総合科学研究科 教授 /  
立命館大学人間科学研究所 客員研究員)

予見的支援プロジェクトの一つの柱である「高次認知研究」の一環として、高齢者の運動コントロールの問題を実験的に検討した。対象としたのは、若年成人 27 名と高齢者 39 名であった。反応形態 (type of response) の違いにより、運動の抑制に影響がでるのかを、2 つの年齢群を対象にして比較した。さらに、視覚刺激と同時に提示される音刺激 (tone stimulus) が運動の抑制に与える影響を同時に分析した。その結果、高齢者では反応形態の違いが、誤反応率に大きく影響することが分かった。さらに、音刺激の提示は、若年成人、高齢者ともに反応を促進し、反応時間を短くする効果のあることが確認された。しかし、高齢者では若年成人に比べ、誤反応を誘発する率も高くなることが分かった。高齢者においては、運動に付随する神経システムの興奮が運動コントロールに強く影響することが示唆された。

(「インクルーシブ社会に向けた支援の<学=実>連環型研究」予見的支援チーム)